

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 15年5月～輸出が再び弱 含み

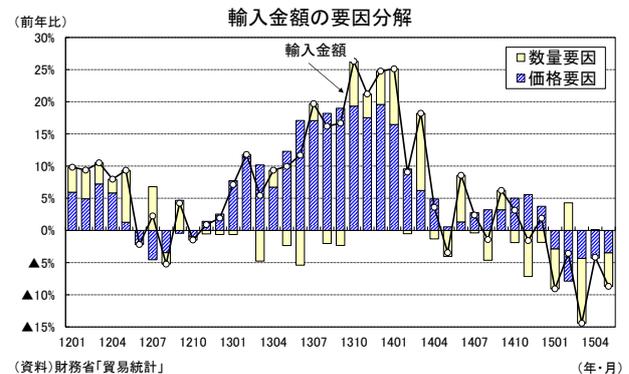
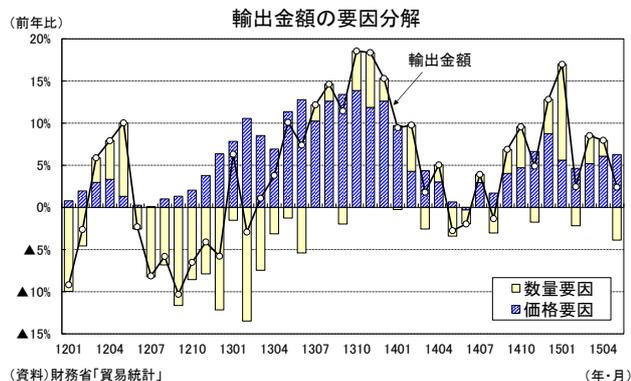
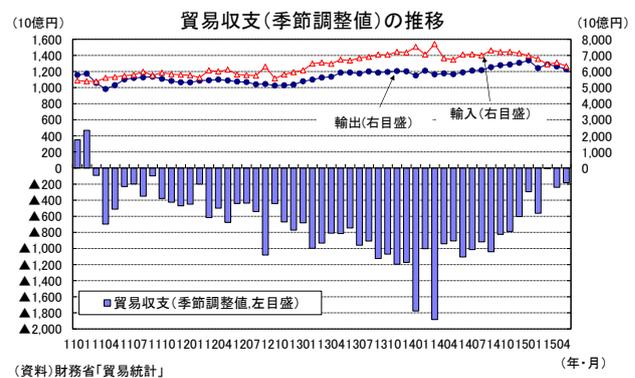
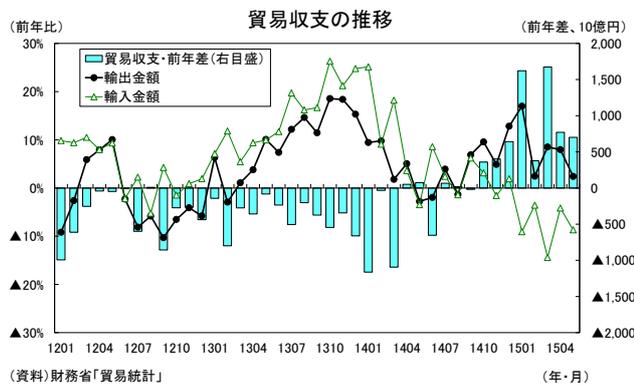
経済研究部 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出数量、輸入数量ともに落ち込む

財務省が6月17日に公表した貿易統計によると、15年5月の貿易収支は▲2,160億円と2ヵ月連続の赤字となり、赤字幅はほぼ市場予想（QUICK集計：▲2,454億円、当社予想は▲753億円）通りの結果となった。輸出が前年比2.4%と4月の同8.0%から伸びが鈍化したが、輸入も前年比▲8.7%と4月の同▲4.2%から減少幅が拡大したため、貿易収支は前年に比べ7,012億円の改善となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲3.8%（4月：同1.8%）、輸出価格が前年比6.4%（4月：同6.0%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲5.3%（4月：同0.1%）、輸入価格が前年比▲3.6%（4月：同▲4.3%）であった。輸出入ともに数量の伸びが前月から大きく低下したが、今年の5月はGWの関係で平日（月～金）の数が昨年よりも2日少なく、通関日数が少なかったことも影響している可能性があることには留意する必要がある。



季節調整済の貿易収支は▲1,825億円の赤字となり、4月の▲2,399億円から赤字幅が縮小した。輸出入ともに前月比で減少したが、輸入の減少幅（前月比▲3.5%）が輸出の減少幅（同▲2.7%）を上回った。

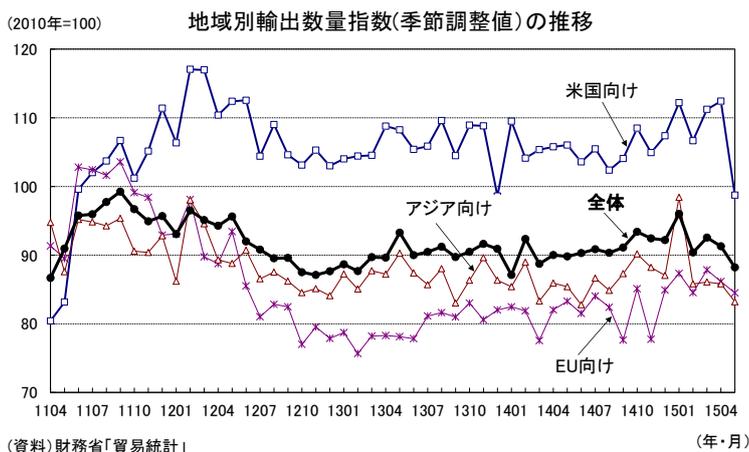
なお、先月時点では15年3月の貿易収支は50億円の黒字であったが、季節調整のかけ直しに伴い▲76億円とわずかながら赤字となった。この結果、季節調整済の貿易収支は東日本大震災が発生した11年3月から4年以上にわたり赤字が継続しているという姿に改められた。貿易統計は直近120ヵ月のデータを用いて毎月季節調整がかけ直されるため、来月以降も新しいデータが加わることにより、過去に遡って季節調整値は改定される。

## 2. 海外経済の減速が輸出を下押し

5月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲6.7%（4月：同7.1%）、EU向けが前年比1.4%（4月：同5.2%）、アジア向けが前年比▲2.3%（4月：同0.1%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲12.2%（4月：同1.1%）、EU向けが前月比▲1.9%（4月：同▲1.9%）、アジア向けが前月比▲3.0%（4月：同▲0.3%）、全体では前月比▲3.4%（4月：同▲1.4%）であった。

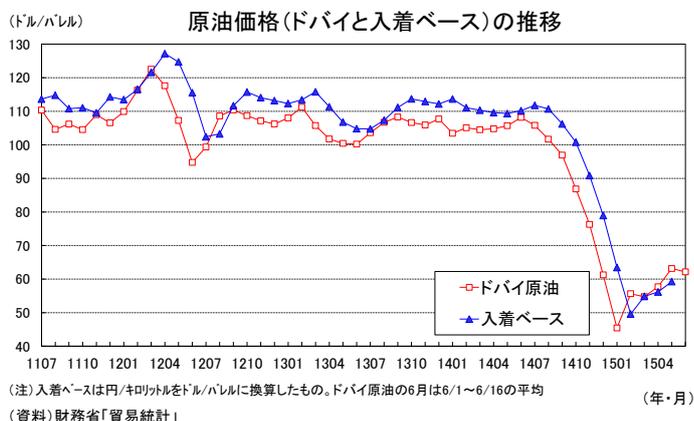
前述の通り、5月の輸出数量が弱かったのは通関日数の少なさによる部分もあるが、4、5月の輸出数量指数（季節調整値）の平均を1-3月期と比べても、米国向けが▲4.0%、EU向けが▲1.4%、アジア向けが▲6.2%、全体では▲3.5%低くなっており、輸出は実勢として弱含んでいる可能性が高い。

生産拠点の海外シフトによって円安による輸出の押し上げ効果が小さくなっているという構造要因に加えて、中国、新興国を中心とした海外経済の減速という循環要因が輸出の下押し要因になっていると考えられる。



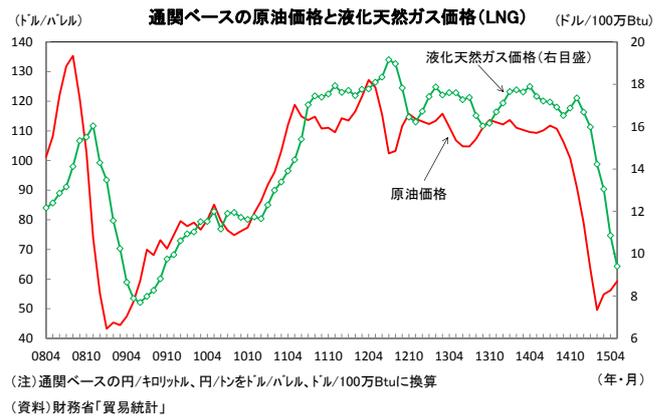
## 3. 貿易赤字は今後拡大へ

5月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=59.3ドル（当研究所による試算値）となり、4月の56.2ドルから上昇した。ドバイ原油は、1月の40ドル前半ばから足もとでは60ドル台前半で推移しており、運賃、保険料が含まれる通関ベースの原油価格は6月には60ドル台前半まで上昇することが見込まれる。



一方、調達価格が原油価格連動型の長期契約となっている液化天然ガス（LNG）の輸入価格は、既往の原油価格下落の影響が反映されることにより現時点では大幅な下落が続いているが、先行きは上昇に向かうだろう。また、5月下旬以降、円安が進んでいることは輸入価格全体を押し上げる。

輸出数量がここに来て弱含んでいることも合わせて考えると、貿易収支（季節調整値）の赤字幅は今後拡大に向かう可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。